



# SVC新聞6月号

☆☆☆ <http://shinmachi-sc.org/club01.html> ☆☆☆

子ども達の自主性を育むために

代表指導者 小 出 利 一

私たち世代が外遊びする時には、大人が近くにいることはなく同級生で集まって、野球、サッカー、ポートボール、鬼ごっこ、河原の石投げ等で遊んでいました。自分たちが楽しむためにルールを作り、不都合ならばルールを変えて、みんなが楽しめるように工夫して楽しみました。楽しみながら遊んでいましたが、みんなが全力で走って、投げて、クラス対抗で試合をしていました。

私は、こうした活動こそ自主的なスポーツだと考えます。

そんな私達世代は、「巨人の星」を代表とするスポ根アニメとドラマが大流行りで自ら真剣にマネをして遊んでいました。

日本の青少年スポーツに昭和 50 年代初頭から大人が携わるように変化しました。ここで、「子どものため」という大義名分から「小さい時から一つの種目をやらなければうまくならない」といった誤った考え方が生まれました。「大人が勝ちたい」、「大人が満足したい」ために勝利至上主義も蔓延ってしまいました。そして、現在その悪い影響として指導現場に暴力暴言が多くなり、保護者も強くなるためならば暴力暴言を受入れてしまうケースまで出現しています。そして、子ども達の身体は悲鳴を上げて、スポーツ障害、心の傷まで負って高校生の時にはスポーツができない身体になっているケースも出現してしまっています。これは、大人の過干渉が要因になって子どもに辛い思いをさせていることに気がついていない困った現象です。

小学生の各種全国大会を廃止する意見がトップアスリートからたくさん提言されていますが、この要因は大人の過干渉が作り出してしまったと私は考えます。全国大会が悪いのではなく、大会に向けた大人たちの自己中心的な発想がもたらしたものです。日本スポーツの父 嘉納治五郎氏は「自他共栄」をスポーツに求めています。この言葉の意味から「自分たちが勝てばよい」という発想は間違っていることとなります。

子どもの自主的なスポーツ活動に必要なことは「大人の見守る姿勢」です。

私も見守る姿勢を体得するために修行中ですが、保護者のみなさんも修行しましょう。

## 【特別事業】

6月19日 ふるさと群馬を学ぼう アプトの道ウォーキング&碓氷鉄道文化むらツアー  
申込は、6月5日の活動日までです。ご家族で参加して楽しみましょう。

## 【通常活動】

6月5日・12日・26日毎週日曜日 10時～12時  
高崎市立新町第一小学校校庭&体育館  
持ち物：タオル、飲み物、体育館シューズ

基本、検温と手指消毒は行いますが、スポーツする際は熱中症の危険が高まることからマスクの着用は不要として指導しますのでご了解ください。